

50 「知の拠点」となる図書館 ～ラーニングコモンズによる主体的・対話的な学びの実現～

京都府 京都市立堀川高等学校

基本データ

所在地 京都市中京区東堀川通
錦小路 上る四坊堀川町
622-2

児童生徒数 734人
教職員数 89人
蔵書数 52,906冊
年間貸出冊数 1,342冊

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】情報活用能力の育成、情報機器の活用

【活動のねらい】

- (1) 授業での活用
生徒同士で自ら必要な学習環境を考え、教え合い、学び合う主体的な学びを促進し、自ら学ぶ力を育成する。
- (2) 総合的な探究(学習)の時間(探究基礎)での活用
可動性の高いツールを活用することで、学習活動のあり方を広げ、分かりやすく生徒同士で深め合える授業を実現する。
- (3) 生徒主体のその他活動での活用
委員会活動やスタッフ活動等をはじめとした、生徒の主体的な活動を支援する空間として整備することで、活動を活性化させる。

取組・活動の概要

(1) 授業での活用

- 国数英理社の5教科の授業で活用している。
- 例えば英語の授業では、実際の場面に即した会話力やパフォーマンス力を養うため、グループによる寸劇を行う場となる。
- 国語の授業では、図書館に併設されている利点を活かし、個人で選んだ短編小説の内容・展開についてグループ内で発表し合う場となる。
- 数学の授業では、1つの問題に対してグループで話し合い、各自の考えについて疑問や意見を出し合うことを通じて解決方法を見つける場となっている。

(2) 総合的な探究(学習)の時間(探究基礎)での活用

- 探究基礎は、答えが用意されていない問題に取り組むために必要な姿勢・知識・技術を身につけることを目的とした授業である。
- この授業では、生徒が自分で設定した課題に取り組む際、教員やTA(ティーチングアシスタント)と相談する場や、同じテーマに取り組むゼミグループでの発表の場としてラーニングコモンズが活用されており、より充実した学びの実現に貢献している。

(3) 生徒主体のその他活動での活用

- 海外研修委員会や探究基礎委員会の活動やゼミ活動をはじめとした、生徒の主体的な活動の場となっている。
- 「ふらっと気軽に入れる空間」であることで、生徒の自由な活動を後押しし、活動内容の充実に役立っている。



海外研修委員会や探究基礎委員会、ゼミ活動での活用



海外研修委員会や探究基礎委員会、ゼミ活動での活用



海外研修委員会や探究基礎委員会、ゼミ活動での活用

取組・活動の工夫や特徴

- ホワイトボードや椅子、テーブル等のツールを可動式にし、グループの形成を用意することで、多様な学習活動の展開を可能にし、生徒の主体的な学びにつながる授業の実現を支援している。
- ノートパソコンの台数を増やし、貸出を行うことで、学びの一層の充実を促している。

取組・活動の成果や今後の展望

- 図書館2階にあるこのラーニングcommonsは、想定以上に生徒の主体的で対話的で深い学びを生み出す空間となっている。
- 昼休みや放課後は、ほぼ毎日活発に利用されており、授業においても新たなスタイルの構築が様々な教科で可能となっている。
- 今後もより効果的な活用方法の研究を続けていきたいと考えている。

